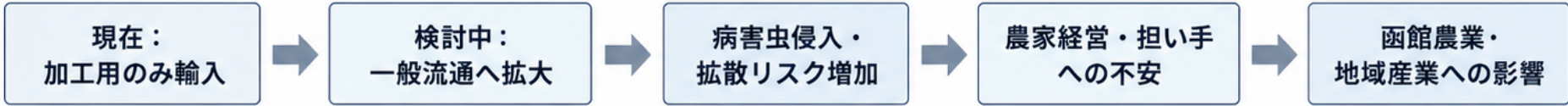


資料1 米国産生バレイショ一般流通拡大で想定される主な課題

一般質問用 論点整理

最大の懸念の流れ



大項目	現在どうなっているか	何が問題か	想定される影響	函館との関係
流通の変化	現在は加工用に限定。 密閉コンテナで指定工場へ直送	一般家庭・飲食店・小売まで 流通範囲が広がる	管理経路が増え、防疫管理が 難しくなる	一般流通になれば地域全体が 対象になる
病虫害リスク	国は対策協議が必要な病虫害 21種類を特定	種芋利用、土・皮・残さ等から 農地へ侵入する可能性	作付制限・減収が長期化し、 営農継続が困難になる可能性	ばれいしょは本市の基幹作物
農家経営	価格や流通条件は未確定	安価な輸入品や病虫害被害で 経営判断に影響	所得減少、規模縮小、離農に つながる可能性	食べチョク調査では反対81.3%
担い手・継承	担い手不足、高齢化、農地の 引継ぎが課題	経営不安が承継や新規就農に 影響	離農、産地縮小、農地維持困難 の可能性	地域計画：規模縮小等 179ha／ 引受意向 56ha
農薬・食品衛生	一般流通なら食品衛生面の 確認も必要	使用農薬、残留基準、検査体制、 原産地情報の把握	消費者不安、風評、選択しにくさ	市民への分かりやすい情報提供 が必要
他地域の動き	北海道、JA、他自治体でも 懸念や要請	函館だけの問題ではない	地域の声を国に届ける必要	本市としても生産者の声の把握 が重要

主な確認データ



※数値は質問準備時点の整理。Gp/Grの違い等の詳細は資料2参照。

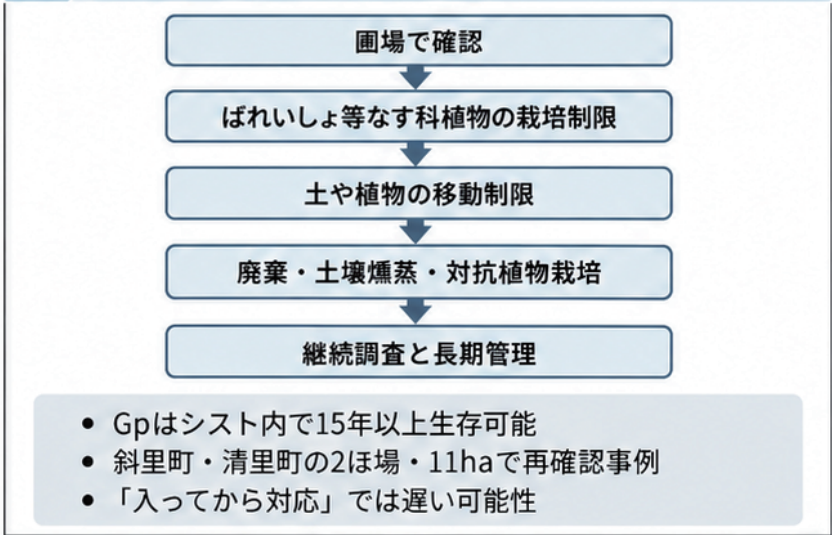
資料2 Gp・Grの違いと函館農業への影響

病害虫リスクと営農への影響の整理

1 Gp・Gr 比較表

	ジャガイモシストセンチュウ (Gr)	ジャガイモシロシストセンチュウ (Gp)
種類	別種	別種
国内確認	1972年に国内初確認	2015年に網走市で国内初確認
函館・道南との関係	函館市内にも発生地域あり	国公表資料では函館・道南で未確認
現在の状況	北海道内で対策継続	道東4市町・28ほ場・81haで確認（2026年6月時点）
何が問題か	既発生でも管理継続が必要	まだ入っていない地域に持ち込ませないことが重要

2 侵入した場合に起こりうること



3 函館農業への主な影響

 **A. 基幹作物への影響**
ばれいしょは本市の基幹作物。減収や作付制限は地域農業に直撃

 **B. 担い手不足**
個人経営体の基幹的農業従事者の約半数が65歳以上

 **C. 承継・農地維持**
地域計画では規模縮小等179haに対し引受意向56ha

 **D. 地域産業への波及**
選果・運送・卸売・食品加工などにも影響が広がる可能性

輸入を決めるのは国でも、侵入後に長期間向き合うのは地域の農家と自治体

函館ではGpが未確認だからこそ、「入れないための対策」を重視する必要がある。

※Gp=ジャガイモシロシストセンチュウ/Gr=ジャガイモシストセンチュウ